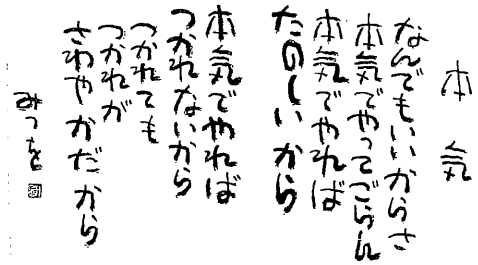
さくら第524号
令和 5年8月

さくら

発行所　さくらそろばん
発行者　平瀬重雄
春江町境 17-7:TEL51-1337
hirase@mx2. fctv. ne. jp



『楽しんでやってみよう』

「これを知る者は、これを好む者に如(し)かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」と論語の一説にあります。これを知っている者は、これを好んでする者にはおよばない、かなわないし、これを好んでする者はこれを楽しんでする者にはおよばないという意味です。

論語は、約2500年前に中国の思想家「孔子」の考え方や行動などを孔子の死後、弟子たちがまとめた本です。人の行動や考え方、心のありようは2500年前も今も基本的には変わらないようです。

何事においても、あの事は知っている、分かっているという人がいます。でも、好きになって行う人にはかないません。また、今からやろうとする事を自分から楽しんでやろうという人にはおよびません。

夏休みの宿題があり、8月中には仕上げて学校へもっていかねばならない事は知っていますが、まだ日数があるから明日から始めても間にあう、次の日からやろうという人がいます。

ある人は、読書感想文を書くためには本を読まねばなりません。そこで好きな内容の本を選んでページをめくり始めます。好きな事なら気持ちよく進みます。

またある人は、自由研究のテーマを何にしようかと考える時に、宿題だからと仕方なく気乗りせず向き合うのではなく、今から取り組む内容について楽しくやろうと前向きで元気いっぱい考えます。調べていくうちにおもしろくなりだんだん楽しさが増すと、意欲がわき、時間のたつのがはやく感じられます。

私は、どっちみちしなくてはいけないのなら、同じ事をするのならイヤな気持ちでやろうと思わず、楽しくする方法は何かなと考えます。おもしろそうな事を、自分の好きな事を取り込んですすめていきます。

中学2年の夏休みの宿題に自由研究があり日本の歴史年表を幅30cmで長さ2mほどの巻紙を作り、絵の具で文字を書き、人物画や建築物なども描きました。自分が興味や関心がある事柄は太い文字で絵も大きく描くと楽しくなります。人に見せるものではなく、自分が楽しいと思うように仕上げていきます。

中学3年の夏休みには金閣寺をマッチ棒で作りました。屋根や窓などにはマッチ棒の赤い部分は切り落とします。絵葉書を何枚も、ちがう角度から見ながら20cmほどの紙箱に入る大きさで1本ずつ、のりで張り合わせます。

その頃ではボンドがまだ市販されてなく、接着剤にはご飯粒をヘラで練りつぶしてノリのようにしたり、セメダインでくっつけたりしました。

3週間ほどで完成したマッチ棒金閣寺を学校へ持って行き、その後の宿題発表会というか校内展示会で金賞をいただき、家で保管していましたがいつの間にか無くなりましたが、今でも楽しく作った夏休みを思い出すことがあります。

イヤな人と過ごす時間はたった数分でも気持ちが沈みますが、好きな人、楽しい事は1時間が数分のように感じられます。

私は運転免許証を持っていない、というより自動車教習所には行ったことがないので近くの移動は自転車です。信号待ちの時は、あと何秒で赤が青になるかを数えます。道路の広さや交通量で多少の違いはありますが、長くても50秒から60秒で変わるので思った秒数が当たると楽しくなります。

エレベーターのドアはふつう4秒で閉まりますが、その4秒を待てずにすぐ「閉」のボタンを押す人が大半です。このように、いろんな場面で楽しくなる方法を探すのも良いもので、見つけるとどこか得した気分になりますね。